

院内感染防止対策に関する取り組み事項

1. 院内感染防止対策に関する基本的な考え方

感染防止対策は、安心・安全な医療提供の基盤となるものです。

当院は、感染防止対策を病院全体として取り組み、病院に関わるすべての人々を対象として、院内感染発生の予防と発生時の速やかな対応を行うことに努めます。

2. 院内感染対策組織に関する基本方針

当院における感染防止対策に関する意思決定機関として、院内感染対策防止委員会を設置し、毎月1回会議を行い感染防止対策に関する事項を検討します。

また感染対策チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を設置し、実務を行います。

3. 院内感染防止対策および抗菌薬適正使用のための職員研修に関する基本方針

職員の感染防止対策に対する意識・知識・技術向上を図るため、全職員を対象とした研修会・講習会を年2回以上行っています。抗菌薬適正使用に関する研修も年に2回以上行っています。

4. 感染症発生状況報告に関する基本事項

法令に定められた感染症届出の他、薬剤耐性や院内感染対策上問題となる微生物の検出状況を報告し、注意喚起を行います。感染防止対策委員会に各種分離菌月報を作成して提出し、検出状況を共有し、必要に応じ感染対策の周知や指導を行います。

5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項

院内感染が疑われる事例の発生時には、ICTは迅速に現場の状況を確認し、感染対策の徹底、疫学調査を行い感染拡大の防止を行います。

必要に応じ、地域の医療機関や保健所と連携し、速やかに対応します。

6. 抗菌薬適正使用に関する事項

耐性菌の出現予防のために広域抗菌薬等を届け出指定抗菌薬に定め、抗菌薬の使用に関連するガイドラインを周知しています。抗菌薬使用患者については、ASTが微生物検査・薬剤の使用量や用法・効果などを定期的、及び必要時に確認・介入し、適切な抗菌薬使用となるように努めます。

7. 患者さんへの情報提供に関する事項

感染症の流行がみられる場合には、ポスター等の掲示物で広く院内に情報提供を行います。

あわせて感染防止の意義および手洗い・マスクの着用などについて、理解と協力をお願いしています。

8. その他の当院における院内感染防止対策の推進のために必要な基本事項

感染防止対策の推進のため、「院内感染防止対策マニュアル」を作成し、病院職員は遵守します。マニュアルはガイドラインを参考に、改訂結果は病院職員に周知徹底します。